

新年明けまして おめでとうございます



湯けむりと目の出

撮影：佐藤三曹



発行責任所
別府市自衛隊協力会
印刷 (株) 電子印刷センター



新年の挨拶

別府市自衛隊協力会会長

別府市長 長野 恭紘

明けましておめでとうございます。

陸上自衛隊別府駐屯地第41普通科連隊をはじめ各部隊の隊員並びに御家族の皆様におかれましては、輝かしい新春を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

また、旧年中は別府市政及び別府市自衛隊協力会に対し格別の御厚誼を賜り、厚くお礼を申し上げます。

昨年、新型コロナウイルス感染症の法律上の位置づけが緩和されました。アフターコロナの別府では恒例行事の復活のほか新たなイベントも続々と開催され、多くの観光客の来訪によりま

ちはかつての賑わいを取り戻してまいります。

そして、この4月に別府市は市制百周年を迎えます。これまでの歴史・伝統・文化・産業や先人たちが築いてきた功績を見つめなおすとともに、豊かな未来と世界につながる次の百年に向けて飛躍することを目指します。

世界情勢においては、終わりの見えないロシアのウクライナ侵攻や北朝鮮問題に加え、昨年はパレスチナ・イスラエル戦争やトルコ・シリア大地震など新たな心配事が発生しました。社会不安の増大に伴い、自衛隊の果たす役



新年の挨拶

第四十一普通科連隊長
兼 別府駐屯地司令

一等陸佐 小林 直基

新年明けましておめでとうございます。

関係協力諸団体の皆様、地域住民の皆様、隊員ご家族の皆様、そして隊員諸君におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、旧年中も滞りなく駐屯地隊務を運営できたのは、駐屯地隊員諸官の奮励はもちろんのこと、これをお支えいただいた皆様のお力添の賜物と感謝申し上げます。

特に、4年振りとなる「山の納涼音頭大会」や5年振りとなる「別府駐屯地創立66周年記念行事」などを地域の皆様と共に開催できたことは、ポストコロナやウィズコロナの促進の観点から、駐屯地として大きな一歩を踏み出す契機になりました。

さて、現在の我が国を取り巻く安全

保障環境は、急速に厳しさと複雑さを増しています。普遍的価値やそれに基づく政治・経済体制を共有しない専制国家が勢力を拡大しており、ロシアによるウクライナ侵略や中国による活動の活発化、北朝鮮による核・ミサイル開発の進展をはじめとする力による一方的な現状変更やその試みは、既存の国際秩序に対する深刻な挑戦となっています。

我々は、我が国・国民が危機にさらされることのないよう、抑止をしつかりと効かせ、万が一それが破綻した場合においても、対処における最後の砦として、国家と国民を守るという強い意思と能力を兼ね備えなければなりません。

このような情勢の中、政府としても、安保三文書を策定し、防衛力の根本的

割はますます幅広くかつ重要性を増すものと思われま。日々の訓練により心身ともに鍛錬を重ね、国民の生命と財産の保全に尽力される皆様に心から敬意を表します。

扇山に漂とたえず別府駐屯地として剛健たる隊員の皆様は、我々別府市民にとつたいへん頼もしく心強い存在であります。地域活動においても、別府湯けむり健康マラソン大会をはじめめとする各種イベントを通じて市民と交流し絆を深めていたたくなど、身近で頼れる自衛隊を肌で感じているところであります。

どうか本年も変わらぬ御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結び、別府駐屯地及び各所在部隊がますます御発展されますよう、そしてこの1年が、小林直基第41普通科連隊長・別府駐屯地司令をはじめ隊員並びに御家族の皆様にとりまして幸多き年となりますよう祈念申し上げます。新年の御挨拶といたします。

強化に取り組んでいるのは周知のとおりです。

我々は、それら国民からの高まる期待や負託に応えるため、より一層努力し、我が国の平和と独立、そして国民の生命・財産を断固として守り抜くために、全身全霊を捧げる覚悟で任務に邁進することを改めて決意した次第です。

加えて、地震多発地域に位置する我が国においては、激甚化・頻発化の傾向にある気象災害との複合的な発生にも備えることが必要であり、このような災害に対しても、平素から培った実力をもって、地域の皆様をお守りする、あるいはお救いすることをお誓い申し上げます。

また、我々が円滑に隊務を運営するためには、地域の皆様のご支援・ご協力が何よりも不可欠です。つきましては、信頼され、そして愛される駐屯地であり続けるべく、覚悟と執念をもって、各種任務や教育訓練に尽力し、その実力を更に進化させて参りますので、引き続きご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

末筆となりましたが、本年も皆様のご家族共々のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。新年のご挨拶と致します。

新年の

第一三四地区警務隊 別府派遣隊長



新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えの事とお慶び申し上げます。

昨年、度重なる延期で実施できなかった、第134地区警務隊訓練検閲をここの文字原演習場で受閲することができました。それと、かなりの件数を抱えていた案件も処理することができ業務を進めることができましたが多忙な1年となりました。

本年も、各種支援、訓練等が予定されているところですが、部隊等と連携して職務に邁進していきたいと思っております。

大分地域援護センター長



新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年3月に着任し、合同企業説明会への参加をはじめ、皆様のご協力等を賜り、多くの退職隊員を新たな活躍の場へ、再出発させることができました。

本年も地域の皆様とともに、プライドを持って、就職援護に邁進する所存です。

今後とも変わらぬご厚情等を賜りますよう、お願い申し上げます。

結びに、皆様のご繁栄とご多幸を祈念申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

第三〇四基地通信中隊 別府派遣隊長



新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年は基地通信部隊人員効率化をはじめ各種訓練支援等多忙でありましたが、各部隊の皆様、隊員家族のご協力を賜り、任務を完遂することができました。

本年も派遣隊一同、合規適正に業務を遂行し、必通の信念を堅持し、各部隊へ提供する常続不断的システム通信を維持するため『輪』を日々の目標とし任務に邁進していく所存であります。

本年も皆様にとって幸多き1年となりますことをご心から祈念申し上げます。

平

三等陸佐 丹生 敏彰

誇

二等陸尉 川添 佑樹

輪

第一中隊長



新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、希望に満ちた輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

旧年は、即応態勢の維持をしつつ、戦術団検閲・災害対処等の各種練度の向上が図れましたのは、地域の皆様やご家族の皆様のご支援ご協力があつたからだと思っております。本年も中隊一丸となり地域・家族に愛される中隊になれるよう一生懸命に邁進してまいりますので、引き続きご支援ご協力をお願い申し上げます。

輝

第二中隊長



新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年の12月に着任してから月日は短いものの、協力諸団体をはじめ、隊員家族の皆様、地域の皆様のご理解とご協力の賜りがあり、任務を遂行できており、感謝申し上げます。

今年もこの美しい日本の平和を守るため、日々訓練等に精進し、「成長」してまいります。

成

重迫撃砲中隊長



新年明けましておめでとうございます。着任以来、「部隊一丸」「武人たれ」を要望事項に中隊

一丸で隊務に邁進し、大過なく新年を迎えることができました。皆様のご理解とご協力のおかげと感謝しております。本年抱負は、昨年同様ポリシー変わらず、何十年先も戦える部隊であり続けるために「武人たる自衛官として、古来より受け継ぎし日本人の誇りを大切に、己が正しいと信ずること（義）のために危険を顧みず責務完遂する隊員の育成」です。本年もよろしくお祈り申し上げます。

義

最先任上級曹長



謹んで新春のご祝詞を申し上げます。昨年、我々別府駐屯地隊員は、各種訓練・行事等を積み上げ、任務完遂できる強い部隊の育成に努めた1年でありました。

組織の根幹は、「人」です。本年も、現場で任務を完遂し得る人材を育成して、地域の方々に信頼される駐屯地となるよう励んでまいります。本年が皆様にとりまして幸多き1年となりますことをご心から祈念申し上げます。

人

本部管理中隊



家族や、今まで支えてきてくださった方々のおかげで、無事二十歳を迎えることができました。

私の二十歳の抱負は、後輩ができたこともあり、今まで以上に自分の言動行動に責任を持つことです。また、社会人としてより多くの知識・技能を学び、社会に貢献できるよう新しい事へ積極的に挑戦していきたいと考えています。これからも感謝の気持ちを忘れずに勤務していきたいと思っております。

第一中隊



私の二十歳の抱負は「成長」することです。二十歳という節目を迎え大人の仲間入りをしました。一つの言動に対して今まで以上に責任をもって行動していきたいと思っております。二十歳を迎えるにあたって社会人として自衛官となり、より新しい知識・技能を学び戦力となり部隊に貢献できるよう頑張りたいと思います。そして今まで以上に積極的に挑戦していきたい、様々な経験を積みその経験を活かし、後輩の育成に努め、自己の成長に繋げていきたいと思っております。

第二中隊



私の二十歳にあたっての抱負は、憧れる先輩になる事です。昨年までは、先輩隊員に必死についていくことしか出来ませんでした。後輩隊員も配属され、私の中にも先輩になったという、自覚が芽生えてきました。

私は陸曹となり、狙撃手になるという目標がありますので、それを達成するため、やるべき事に一生懸命に取り組み、持ち前である元気を活かして、後輩指導に努め、憧れる先輩になりたいと思っております。

二十歳抱負

第三中隊



私の二十歳の抱負は、「時間を有効的に」です。私が過ごしてきた20年という時間は長いようで短い、大切な「時間」でした。これからも、その貴重な「時間」を無駄にすることなく、自己の成長、人を思いやる時間にあてていきたいと思っております。

また、プライベートの抱負として豊かな人生を送るため、こつこつと貯金をしていきたいと思っております。最後に、今年には家族に恩返しの旅をプレゼントしようと思っております。

第四中隊



新年あけましておめでとうございます。私は、今年で二十歳を迎えました。大人として一歩を踏み出すことができ、喜ばしい気持ちです。ですがその一方で後輩ができて、先輩としての自覚と責任を持たなければならぬ不安もあります。それを踏まえて新人としての抱負は「先輩に慕われる先輩」を掲げます。そのために今後見られるべき意識を持って行動していきたいと思っております。

重迫撃砲中隊



私の二十歳の抱負は「責任を持つ」ことです。成人になっても出来ない事が、二十歳を迎える事によって、さらに増えてきます。飲酒や喫煙、その他様々な制限がなくなり、一歩間違えると人生を狂わせるような事態になります。そのようなことにならない様に自分を律し、責任のある行動をしていきます。

また、お世話になった方々に感謝を伝えていく1年にしたいと思います。結びに皆様におかれましては、ご多幸の1年になりますよう、祈念致します。

別府駐屯地 X (Twitter)

更新中!!

陸上自衛隊別府駐屯地(公式)フォロー



5年ぶりの開催 別府駐屯地 創立66周年記念行事



体験試乗



観閲行進



戦闘訓練展示



感謝状贈呈式



ちびっこレンジャー体験



ふれあいコンサート

別府駐屯地 創立六十六周年 記念行事

別府駐屯地は、令和5年10月15日(日)に別府駐屯地創立66周年記念行事を開催した。開始に先立ち、駐屯地に多大なご支援、ご協力を頂いている個人5名の方々に駐屯地司令より感謝状を贈呈した。

まず初めに、駐屯地グラウンドにおいて観閲式が行われ、式の中で多くの来賓参観の中、駐屯地司令は「我々が円滑に隊務を運営するためには、地域の皆様方のご支援・ご協力が不可欠であります。新型コロナウイルスの影響により、この3年間、様々な社会経済活動が制限を受け、地域の皆様方との接触を断たれた経験をもって、その重要性を強く痛感しました。よって、別府駐屯地は、引き続き、「地域とともに」をモットーに、地域の皆様方から、さらに信頼され、さらに愛される駐屯地となるよう精進してまいりますので、引き続き、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。」と式辞を述べた。

式典終了後、第41普通科連隊音楽部及び第40普通科連隊(小倉)の合同演奏にのせ、観閲部隊指揮官を先頭に各幕僚、駐屯地駐屯部隊、さらに、本記念行事に支援として参加している部隊の、威厳を放ち颯爽と駆け抜ける姿に拍手があがっていた。その後、来場者は本行事の目玉となる戦闘訓練展示では、155mm榴弾砲・16式機動戦闘車による轟音の空包射撃や、普通科隊員の第一線地域における戦闘など、目前で繰り広げられる大迫力の戦闘訓練に歓呼の声が上がった。

駐屯地武道場において、合同音楽部によるふれあいコンサートが行われた。指揮者を務めていた甲斐有一一等陸曹は演奏の合間の挨拶で「3年続いたコロナ渦の中、演奏支援をお断りする事が心苦しく感じており、皆様の前で演奏できることを今、大変嬉しく思います」と涙を浮かべ心境を伝えていた。

この他にも高機動車・軽装甲機動車の体験試乗、子ども広場、ちびっこレンジャー体験、装備品展示等が行われ、約4700名の来場者が訪れ、賑わいを見せた。
隊員はもちろん、来場者にもたくさんの笑顔があふれており5年振りの記念行事は心温まる開催となった。

平和を仕事に!! 自衛官募集中!!

自衛隊大分地方協力本部ホームページ



令和五年度

第五次連隊練成訓練

連隊は、令和5年11月10日(金)から12日(日)までの間、第五次連隊練成訓練において、重迫撃砲中隊・衛生小隊・狙撃班の訓練検閲を実施した。本訓練の目的は、各級指揮官の状況判断能力及び新領域を含む戦闘力の組織化に係る能力の向上、受閲部隊の練度の評価判定を目的として行われた。

重迫撃砲中隊の射撃分隊は、降雨による地面の泥濘化の中、約600キロの重量の迫撃砲を分隊一丸となり搬送、迅速な射撃準備を行った。射撃任務が発せられると、迅速な照準・射撃により、第一線中隊へ火力支援を行っていた。衛生小隊は、陣地進入後、收容所の開設を行った。傷病者が発生すると、担架をもって駆けつけていき、応急処置を行った。後、担架搬送、患者の後送を早急におこなっていた。この間、化学攻撃により、防護マスクを装着したままの状況があり、苛烈な環境であったが、多くの傷病者への衛生支援を行い続けた。

狙撃班は、万全の準備を期して、経路を入念に確認し、潜入を開始した。超重量の荷物を背負いながらの潜入経路は悪路であるが、その足音にも細心の注意を払いつつ、隠密に敵陣地内へと潜入した。狙撃手と観測手が連携し、情報収集や敵指揮官への狙撃を行い、敵に混乱を与えていた。与えられた任務を日夜問わず遂行し、状況は終了となった。

職種によって任務は違うが、日々の訓練により組織化された戦闘力を発揮していた。



弾薬装填



陣地進入



応急処置を行う衛生科隊員



担架搬送



狙撃



隠密に潜入

第四師団長 別府駐屯地初度視察

連隊は、令和5年11月9日(木)、第4師団長 戒田重雄 陸将の初度視察を受察した。駐屯地へ到着した戒田師団長を第3中隊 穴見世名 2等陸尉以下の儀仗隊による栄誉礼の後、連隊長以下、幕僚、各中隊長が出迎え、記念撮影を行った。

その後、別府駐屯地オリジナルメニューである大分の郷土料理を主とした「扇山ランチ」を栄養管理士による説明を受け、歓談を交えながら会食を行った。午後より、幹部挨拶、状況報告、別府駐屯地周辺の地点指示を受け、別府駐屯地の現状を掌握した。この間、戒田師団長は各隊員への感謝や労いの言葉と握手を諸所にわたり交わっていた。その後駐屯地を後にし、初度視察は終了した。



巡閲



駐屯地周辺の地点指示



記念撮影

第四十二回 大分国際車いすマラソン支援

連隊は、令和5年11月19日(日)大分市で行われた第42回大分国際車いすマラソン大会において隊員約80名による大会支援を行った。大会支援内容は競技用及び生活用車いすの運搬、報道車での取材補助、大会終了後の選手の移動補助を行った。

大会は、国内、世界各国から約230名の選手が参加。支援部隊は宿泊先のホテルやスタート地点に預けた参加選手の生活用車いすを細心の注意を払い、積載や卸下を行った。またボランティアの方々と声を掛け合い、連携し、大会運営に大きく貢献した。

また閉会式では、第41普通科連隊長 小林直基 1等陸佐が表彰式のプレゼンターを務め、ハーフマラソン男子の部の受賞者にメダルを授与するとともに、表彰者を称え握手を交わした。



車いす積載



報道支援



表彰選手と握手を交わす小林1佐

令和五年度 連隊銃剣道競技会

連隊は、12月20日(水)に4年振りとなる、令和5年度連隊銃剣道競技会を実施した。今競技会は、男性自衛官による中隊対抗の総当たり方式による団体戦、女性自衛官によるトーナメント方式の個人戦が行われた。選手は気迫のこもった声とともに練り出される「刺突」で白熱の試合を繰りひろげていた。また、試合の結果に一喜一憂しながら、選手を応援する声は会場に終始響き続けていた。

今競技会において、近接戦闘能力の向上を図るとともに、中隊の団結強化及び士気の高揚を図る事が出来た。

なお結果は、団体戦において第3中隊が、個人戦において本部管理中隊 轟綾乃 陸士長が優勝を飾った。



白熱の試合



盛り上がる応援



表彰

職場体験学習

連隊は、令和5年12月6日(火)及び7日(水)に大分市の楊志館高等学校の学生18名に対し、職場体験学習を行った。

この体験学習では、広報資料館を活用し、陸上自衛隊や別府駐屯地の概要の説明や、別府駐屯地に配属されている様々な職種の隊員から説明を受け、勤務中の姿を見学した。この他にも、衛生科隊員による救急法や高機動車の体験試乗を行い、普段経験する事の無い非日常の連続に目を輝かせていた。

体験学習を受けた感想を学生に聞くと「陸上自衛隊に、こんなにもたくさん職種があることに驚いた。」や「昼食がとてもおいしかった」と笑顔で答えていた。

今回の職場体験を通じ、学生達は自衛官という職業の一端にふれ、見聞を広げることが出来た様子であった。



資料館説明



心肺蘇生法



通信職種の説明

新年あけましておめでとうございます

別府駐屯地 X (Twitter)

更新中!! 陸上自衛隊別府駐屯地(公式)

フォロー



平和を仕事に!! 自衛官募集集中!! 自衛隊大分地方協力本部ホームページ

別府駐屯地業務隊

扇山訓練場防火帯整備

業務隊は、令和5年11月14日(火)に40名をもって扇山訓練場の防火帯整備を実施した。当日は、天候にも恵まれ整備は予定よりも捗り、1件の事故もなく成功裏に任務を完了した。業務隊は本整備をもって、年内の施設等の整備予定をすべて終了した。なお、今年度は、これまで、国東無線中継所、山浦無人中継所、両子山通信訓練場、別府病院跡地等、延べ14ヶ所の整備を完了した。



整備前



整備中



整備後

第四〇四会計隊

西部方面会計隊持続走競技会

会計隊は、令和5年11月23日(木)に健軍駐屯地で実施された、西部方面会計隊持続走競技会に参加した。



集合写真

約2か月間の練成訓練の成果を全隊員が発揮した結果、「選抜Aの部 優勝」「選抜Bの部 優勝」「部隊総合(個人走含む) 準優勝」更に、選抜Aの部第3区において岩佐2尉が区間賞、その他の選抜メンバーも各区分3位以内と健闘した。



アンカーを務めた2等陸曹 後藤雅仁

第三普通科直接支援中隊

令和五年度 中隊射撃競技会

第3普通科直接支援中隊は、令和5年11月30日(木)に十文字基本射場において、中隊射撃競技会を実施した。本競技会は、令和5年度大隊射撃競技会に向け中隊射撃競技会を実施し、中隊隊員に対し大隊射撃競技会の要領による射撃を実施させ、射撃練度の向上を図る目的として行った。

開会式では、整備小隊 郡田3曹が、「日頃の訓練成果を遺憾なく発揮し、全力を尽くして頑張ります。」と力強く選手宣誓した。当日は、寒さが厳しいなか射撃が実施されたが、競技会に参加した隊員は、練成した成果を発揮すべく必中の精神を持って射撃を行った。

結果は、実力伯仲の真剣勝負の末、優勝：本田3曹(脩)、準優勝：郡田3曹、3位：本田3曹(風)が成果を収めた。

優勝した本田3曹(脩)は、「射撃には自信があるので、大隊競技会も優勝できるように、練習を重ねたい。」と感想を述べた。中隊は、引き続き、次回の検定及び競技会に向けて、射撃の練度向上に努めていく。



入賞した3名

大分地方協力本部 大分地域援護センター

ヘリコプター体験搭乗

大分地域援護センターは、令和5年11月19日(日)、湯布院駐屯地において、自衛隊退職者雇用企業主等を招聘して、令和5年度第2回援護協力者に対するヘリコプター体験搭乗を支援し、自衛隊に対する理解を深めて頂き、就職援護基盤の拡充・強化を図った。この際、西部方面ヘリコプター隊より「UH-1」機の協力を受けるとともに、大分県内から企業様「5社8名」を招聘し、駐屯地講堂において飛行前の説明を受けたのち2組に分かれ計2回のフライトに飛び立った。

着陸後は皆様に満面の笑みを浮かべ興奮冷めやらぬ様子であった。無事に体験搭乗を終え、帰り際には当日の集合写真を受け取り帰途に就いて頂いた。我々援護センター一同は、就職援護について関係企業との緊密な関係を構築し、隊員が安心して第2の就職先等に就けるよう親身に支援して参る所存ですので、引き続きのご協力をお願い致します。



記念撮影

第一三四地区警務隊別府派遣隊

警務隊の現況

警務隊は、令和5年10月15日(日)別府駐屯地創立66周年記念行事に伴う保安業務を実施した。支援としては、衛藤議員の警護を行うとともに駐屯地内の巡回警備等も併せて実施し、要人への襲撃及び行事の妨害を念頭に入れ、事前の調整、経路・場所の確認を万全に実施して整齊円滑な進行に寄与した。

また、令和5年12月13日(水)から22日(金)の間、年末年始休暇に伴う防犯活動を実施した。重視事項として、飲酒関連犯罪の防止を掲げ、各部隊等に対して防犯資料の配布、防犯巡察及び防犯助言を行い防犯意識の高揚に努めた。今後とも部隊の協力を得て実施していきたい。



OBとの懇談状況



要人警護の状況

第三〇四基地通信中隊 別府派遣隊

令和五年度 西部方面總監検閲

令和5年10月18日(水)から10月23日(月)までの間、令和5年度西部方面總監検閲が実施された。統裁官要望事項である「あらゆる戦闘力を組織化し、抗堪性あるシステム通信組織を構成・維持・運営せよ」を念頭に、派遣隊員が一丸となって別府及び大分通信所の防護と通信運営に邁進した。また、別府駐屯地に展開した野外通信部隊への回線構成支援及び内線提供により通信網の完成に貢献した。今年度の4月から積み重ねてきた練成の集大成として各隊員が総力を発揮することができた。この結果に奮れることなく引き続き通信能力の向上のため日夜精進していく。



野外通信部隊のアンテナ車



通信センターへの回線提供支援

新年あけましておめでとうございます

陸曹候補生選抜試験

連隊は、第145期陸曹候補生及び一般候補生入校予定者試験を実施した。

この試験は陸曹になるためのもので、いわゆる「陸曹への登竜門」である。受験者は上官である陸曹にアドバンス等を受けながら、体力練成や勉学に励み、試験当日を迎えた。小規模の指揮官としての指揮能力を試験する術科試験では、10名ほどの分隊員を活気に満ちた声で各種号令を駆使し、行進させ、人幅程度の2つの旗の間を巧みに通過させていた。張りつめた雰囲気の中で試験であったが、それぞれが理想とする陸曹を目指している隊員の姿は、凛として希望に満ち溢れていた。



術科試験



体力検定

令和五年度 別府市自衛隊協力会総会

令和5年12月6日(水)に別府駐屯地において、別府市自衛隊協力会の総会が行われた。総会には別府市自衛隊協力会会長長野恭紘、別府市長をはじめ、約170名が参加した。総会に先立ち会長から、自衛隊に対する感謝の言葉があり、ついで別府駐屯地司令 小林直基 1等陸佐は、自衛隊協力会の方々に、4年振りの開催の山の納涼音頭大会や、5年振りの開催の創立記念行事の開催できたことをふまえ、感謝の言葉及び、引き続きのご支援をお願いし、挨拶とした。総会後は駐屯地食堂において会食を行うとともに、別府駐屯地の音楽部による演奏を行った。演奏はアンコールの拍手が起る大盛況の中、総会は万歳三唱をもって、終了となった。



挨拶を述べる駐屯地司令



会食と演奏

離着任 部隊長紹介

着任 中隊長

離任 中隊長



3等陸佐 上野 真司



1等陸尉 藤原 真一



1等陸尉 村山 輝明



3等陸佐 松永 悠平

第二中隊

第三中隊

12月 転出入者紹介

転出者

第41普通科連隊から
連隊本部 (2名) (4名)

- ・2等陸佐 三好 脩二 (留萌)
- ・留萌駐屯地業務隊
- ・1等陸尉 鬼塚 正幸 (仙台)
- ・水陸機動団兼ねて
- ・竹松駐屯地業務隊付 (竹松)
- 第3中隊 (1名)
- ・3等陸佐 松永 悠平 (千僧)
- ・第3師団司令部
- ・重迫撃砲中隊 (1名)
- ・2等陸尉 土井 大孝 (久留米)
- ・第5陸曹教育隊

転入者

第41普通科連隊へ
連隊本部 (1名) (2名)

- ・2等陸佐 佐藤 成浩 (仙台)
- ・東北方面総監部
- 第2中隊 (1名)
- ・3等陸佐 上野 真司 (富士)
- ・富士学校
- 大分地域支援センターへ (1名)
- ・3等陸佐 阿南 徹 (健軍)
- ・西部方面会計隊

別府・湯布院 自衛隊指定商社会定例会

令和5年10月31日(火)、別府・湯布院自衛隊指定商社会の定例会が行われた。本会は自衛隊業務運営の円滑化及び隊員の文化並びに福祉生活に寄与する事を目的として、現在は様々な業種71社が入会している。総会は国歌斉唱から始まり、別府駐屯地発展の為に、さまざまな意見をいだいた。



総会の様子

新年あけましておめでとうございます

別府駐屯地 X (Twitter)

更新中!!

陸上自衛隊別府駐屯地(公式)

フォロー

